短 報

福岡県における3歳児齲蝕有病の
最近の動向

The Recent Trend of Dental Caries
Prevalence in 3-year-old Children in
Fukuoka Prefecture

十亀 輝*, 山口佳子**, 上野幸子**
加藤恭裕**, 宮崎秀夫**, 竹原直道**

Akira SOGAME*, Yoshiko YAMAGUCHI**,
Sachiko UENO**, Yasuhiro KATOH**,
Hideo MIYAZAKI** and
Tadamichi TAKEHARA

緒 言

我が国の乳歯齲蝕が1975年頃から減少し始めたという報告は数多い¹⁻⁵⁾。しかし80年代後半における3歳児齲蝕有病の動向についてのまとまった報告はまだない。そこで、我々は福岡県下の保健所で実施された3歳児歯科健診の資料に基づいて、1981年から89年までの3歳児齲蝕有病状況の推移を検討した。

資料および方法

1985年から89年の福岡県下各保健所管区における3歳児歯科健康診査の実施成績を基礎資料とし、受診率、齲蝕有病者率、齲蝕罹患型(ABC型)別有病者率、1人平均df歯数(齲歯数)について調査年毎に集計した。1981年から84年については各年度の歯科衛生関係資料⁶⁾のデータを参考にした。

1985年から89年の1人平均df歯数について、県下各保健所管区別に1人平均df歯数の年次推移を1次式に当てはめ、増加・減少の傾向を調べた。

結 果

1981年から89年の福岡県における3歳児歯科健診の受診者数、受診率、齲蝕有病者率、齲蝕罹患型別有病者率、1人平均df歯数をTable 1に示す。1984年に68%であった受診率は、毎年前年度に比較して有意($p < 0.05$, χ^2 -test)な上昇がみられ、89年には75%となった。

齲蝕有病者率は81年の61%から経年的に漸次減少していた。また81年から89年にかけての齲蝕罹患型別有病者率を見てみると、A型とC型は変動を示さないが、B型は減少していた。

Fig. 1に福岡県の3歳児の1人平均df歯数の時系列変化を示す。1人平均df歯数は、1981年の3.1本から89年の2.8本と減少していた。この変化を一次式に当てはめると有意($p < 0.05$: 回帰方程式による検定)な減少といえる。また、この変化を1981年から85年と85年から89年に分け、各々の5年間について一次式に当てはめると、81年から85年では減少が有意であるのに対し、85年から89年では有意な変動があるとは言えなかった。

1985年から89年にかけての保健所管区別の1人平均df歯数は、85年で最高値4.7、最低値1.9であった。それが1989年には、最高値4.2、最低値1.6となった。

Fig. 2に1985年から89年にかけての保健所管区別に求めた1人平均df歯数の年次推移を一次式に当てはめた増加・減少の傾向を示す。5年間で有意($p < 0.05$: 回帰方程式による検定)な増加が認められたのは、県内36保健所管区のうち八幡市、大牟田、筑紫の3管区であった。有意な減少が認められたのは、戸畑、福岡中央・南、朝倉、八女、築上の6管区であった。その他の保健所管区では有意な変動は認められなかった。この様に福岡県下の3歳児齲蝕有病状況には地域特性が存在していた。

考 察

1963年から83年の21年間にわたる、3歳児齲蝕有病状況を時系列解析した報告^{3,4,7)}によると、齲蝕有病者率、1人平均df歯数は63年以来増加傾向にあったのが、75年をピークに、全国的に減少をたどり83年に至っている。3歳児齲蝕有病の改善傾向が明らかにされるなかで、一方では齲蝕有病の地域格差が存在し、その差が広がっていることも指摘された。

福岡県博多保健所管内での1970年代後半の3歳児齲蝕有病状況も全国的傾向にもれず、75年の齲蝕有病者率74.4%、1人平均df歯数3.7から79年の齲蝕有病者率62.6%、1人平均df歯数2.9まで経年的に減少していた。

* 福岡県保健環境部 (主任: 平良専純部長)

** Health and Environmental Department,
Fukuoka Prefectural Government
(Chief: Senjun TAIRA)

** 九州歯科大学口腔衛生学教室 (主任: 竹原直道教授)

** Department of Preventive Dentistry, Kyushu
Dental College

(Director: Prof. Tadamichi TAKEHARA)

1991年8月27日受付

Table 1 Total number of children examined and mean number of df teeth in 3-year-old children in Fukuoka prefecture between 1981 and 1989

Year	N	% of children examined per total population	% of children with one or more df teeth	Caries severity type (%)			Mean number of df teeth
				A	B	C	
1981	47,333	—	61.0	30.2	25.1	5.7	3.11
1982	45,104	—	61.3	31.3*	24.3*	5.7	3.20
1983	45,439	—	59.9	30.1*	23.6*	6.1*	3.05
1984	43,394	67.9	59.8	30.5	23.3	6.0	2.84
1985	44,790	69.7*	56.6*	29.2*	21.5*	5.4*	2.79
1986	44,527	69.9*	57.4*	29.9*	21.5	5.6	2.85
1987	44,118	70.6*	53.9*	28.9*	19.4*	5.1*	2.59
1988	42,289	71.7*	57.2*	31.0*	21.0*	5.1	2.82
1989	41,936	74.9*	56.7	30.2*	21.0	5.6*	2.82

* $p < 0.05$ (chi-square test); each data to data for previous year

Fig. 1 Mean number of df teeth in 3-year-old children in Fukuoka prefecture between 1981 and 1989.

$$81-89: y = -0.054x + 7.4 \quad (p < 0.05)$$

$$81-85: y = -0.1x + 11.3 \quad (p < 0.05)$$

$$85-89: y = 0.03x + 2.5 \quad (\text{no significant})$$

という。

この様に福岡県を含む全国的な3歳児齲蝕の減少傾向は、歯科疾患実態調査¹⁾を始め、多くの報告によって明らかである。しかし、Fig. 1にも示すようにこの減少傾向はここ数年、鈍磨してきていると考えられる。これは最近の3歳児歯科健診結果の全国平均²⁾にも現れている。この状況が一時的なものかどうかは今後の経緯によって明らかになるであろうが、少なくとも我が国において乳歯齲蝕が今後ともこれまでの様なスピードで減少し続けるとは言えないことをデータは示している。今後更なる徹底した歯科保健プログラムの推進が必要であろう。

□ decrease ▨ no change ■ increase

Fig. 2 Change pattern of mean number of df teeth in 3-year-old children in Fukuoka prefecture from 1985 to 1989, by each public health center area.

結 論

福岡県下の保健所などにおいて実施されている3歳児歯科健診について、1981年から89年までの資料に基づき、福岡県下の3歳児の齲蝕有病状況の推移について検討した。

その結果、3歳児齲蝕は全体として減少していたが、地域における格差が存在しており、且つごく最近ではこ

の減少は停滞の傾向にあることが示された。

文 献

- 1) 厚生省健康政策局歯科衛生課編：昭和62年歯科疾患実態調査報告，口腔保健協会，東京，1989.
- 2) 上條英之，日高勝美，三井男也：1歳6カ月児並びに3歳児歯科健康診査からみたわが国の乳歯齲蝕罹患状況の推移，口腔衛生会誌，**37**：458-459，1987.
- 3) 片山 剛，氏家高志，長田公子，岡田昭五郎：3歳児歯科健康診査成績の時系列解析—都道府県別にみた齲蝕有病者率の推移—，口腔衛生会誌，**36**：609-614，1986.
- 4) 片山 剛，氏家高志，長田公子，岡田昭五郎：3歳児歯科健康診査成績の時系列解析 2. 都道府県別にみた一人平均齲蝕数の推移．口腔衛生会誌，**37**：57-62，1987.
- 5) 森岡俊夫，森田恵美子，神宮純江，南部由美子，新谷早苗：福岡市博多保健所管内3歳児の経年的う蝕減少傾向について，口腔衛生会誌，**31**：

197-202，1981.

- 6) 厚生省健康政策局歯科衛生課編：歯科衛生関係資料，日本口腔保健協会，東京.
- 7) 高橋文恵，片山 剛，長田公子：3歳児歯科健康診査成績の時系列解析 3. 3歳児歯科保健水準の地域格差と社会特性指標の関連性．口腔衛生会誌，**39**：264-273，1989.

索引用語：乳歯齲蝕，3歳児，歯科健康診査

Key words : Deciduous tooth caries, 3-year-old children, Dental health check up